

TV 報道検証【報道特集】 報告書

テレビ局：TBS	番組名：報道特集	放送日：2020年11月7日
出演者：金平茂紀、日下部正樹、膳場貴子、斎藤慎一郎		
<p>検証テーマ：アメリカ大統領選挙の最新情勢、オープニング、ネバタ州の投票所から 大統領選挙の開票作業への対応、北海道の新型コロナ対策、アメリカの新規感染者 菅総理が感染再拡大に強い懸念、横田拓也さんの『命の講演会』</p> <p>【特集】アメリカ大統領選挙 日本学術会議</p>		
<p>報道トピック一覧</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ大統領選挙の最新情勢 ・オープニング ・ネバタ州の投票所から ・大統領選挙の開票作業への対応 ・北海道の新型コロナ対策 ・東京と神奈川の感染者 ・アメリカの新規感染者 ・菅総理が感染再拡大に強い懸念 ・車の保険金目的で川に車を転落させた事件について遺族が思いを語る ・横田拓也さんの『命の講演会』 ・【特集】アメリカ大統領選挙 ・スポーツ報道 ・日本学術会議 		
<p>放送法第4条の見地からの検討・検証および該当トピックの報道内容要旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ大統領選挙の最新情勢：結論→特に問題なし <p>アメリカ大統領選挙の最新情勢について以下に朱記したようなVTRが取り上げられていた。</p> <p>土居一雄「バイデン氏を乗せた車両が会場に向かっていきます、これから全米に向けて演説を行います。」</p> <p>ナレ「結果が決まらないまま開票開始から3日以上が経過した、アメリカの大統領選挙、日本時間の今日昼過ぎ、演説を行った民主党のバイデン候補はより明確な表現で勝利への確信を語りました。」</p> <p>バイデン（民主党候補）「過半数を確実にとって我々は勝つ。既に7400万票以上とりました。7400万です。」</p> <p>ナレ「民主党のバイデン候補が接戦のペンシルベニア州とジョージア州で当初リードしていたトランプ大統領をわずかなさで追い抜き更に当選に近付いたのです。」</p> <p>"バイデン氏は演説で大統領への就任を前提に副大統領候補のカマラ・ハリス氏や専門家とともに、新型コロナの対策会議を開いたことを明らかにしました。」</p> <p>バイデン「我々のコロナ対策計画を就任初日に実行します。」</p> <p>ナレ「アメリカメディアは勝利を見越してシークレットサービスがバイデン氏の警備を増員したと報道。さらにアメリカ連邦航空局はデラウェア州にあるバイデン氏の自宅や陣営の上空を一時的に飛行禁止区域にしたと伝えてあります。バイデン氏を取り巻く環境が変わりつつある中、</p>		

"対するこの人は。"

トランプ大統領 (Twitter) 「バイデン氏は不当に大統領の職を主張すべきではない、訴訟手続はまだ始まったばかりだ。」

ナレ「こうツイートし、改めて法廷闘争に持ち込む考えを示しました。今回の選挙に違法な票があると繰り返し主張するトランプ氏。」

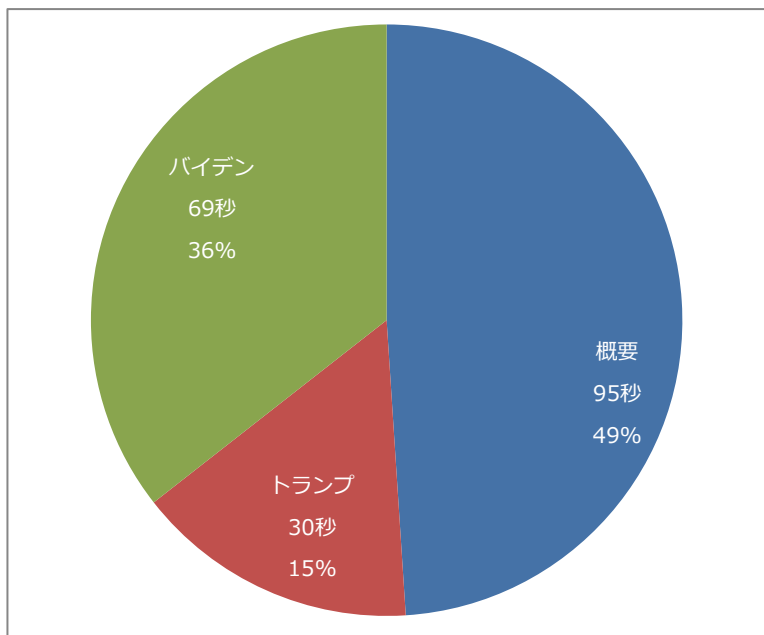
ただ、不正に関する証拠については一切示さないままで、5日の会見を生中継していたアメリカの三大ネットワークは根拠のない誤った発言は放送できない、として途中で放送を打ち切りました。」

トランプ支持者「選挙を盗むな！」

バイデン支持者「お前はクビだ。」

ナレ「支持者の応援にも力が入り、一部はエスカレートしています。東部ペンシルベニア州では開票所近くで5日夜、男二人が許可なく銃を所持した疑いで逮捕されました、現地メディアは2人は開票所の襲撃を計画した可能性があり、乗っていた車には過激な陰謀論を信奉し、トランプ氏を熱狂的に支持する Q アノンのステッカーが貼られていたと伝えています。よりよい未来を選択したはずの選挙で皮肉にもアメリカの分断が一層先鋭化しているようです。」

このトピックについて当てられた時間は 194 秒で時間配分及び比率は以下の通りであった。



放送法上は特に問題は見られなかった。

・オープニング：結論→特に問題なし

番組の冒頭で金平キャスターが「ワシントンです、あのトランプ大統領が負けそうな状況がずっと続いています。民主党のジョー・バイデン氏が過去最多の得票数を獲得し、大統領になるのに必要な選挙人の獲得に王手をかけた状況がずっと続いています、バイデン陣営は勝利に自信を深めています。もう一つの注目点はアメリカ史上初の女性副大統領が誕生することになるのかどうかということです。後ほど中継を交えてこちらからお伝えします。」とコメントしていた。このシーンに当てられた時間は 33 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・ネバダ州の投票所から：結論→特に問題なし

スタジオでの膳場キャスターの「ではニュースです、決戦を決める開票は最終局面を迎えています、両者の各得票数がなかなか積み上がってこない状況が続いています」とのコメントおよび日下部キャスターの「その理由と最新の数字をネバダの開票所から伝えてもらいます。尾関さんお願いします。」とのコメントを受けて、ネバダ州の投票所から尾関キャスターによって中継で「はい、ネバダ州、ラスベガスにある開票所の前です、こちらは7日の午前0時半を回ったところです、激戦が続く4つの州の内、ここネバダ州では1.79ポイント差でペンシルベニア州でも0.43ポイント差でバイデン氏がリードしていますが、いずれも情報が更新されていない状況が続いています。ネバダ州では人口の7割以上がラスベガスの開票結果が状況の結果を大きく左右しますので、特にこの開票所の情報の更新が注目されています。ただ、集計作業が夜通し行われているわけではなく、開票速報の発表も日中に一回、ないし、2回しかないということで昼間とは打って変わってこの時間はこの通り、ひっそりとしています。では注目される開票速報で、どれくらいの票が空いているかということ、前日19万票残っているとされた未集計の票の内、6日に発表されたのは手元の計算で47000票分だけでした、日本の選挙と比べると、かなり慎重だな、という印象を受けます、これについてラスベガスの選挙当局は集計しているのが郵便投票が中心だとした上で、私達が大切にしているのは速さではなく正確さだ、と繰り返し強調していました。これは、不正があると訴え、法廷闘争をちらつかせる、トランプ陣営の訴訟対策もあるかとは思いますが、トランプ氏の支持者の中には発表が遅いなら、その間に不正ができてしまう、と返って疑念を強めてしまう人もいました。情報の更新が進まず、その発表の在り方も議論を呼ぶ中、ラスベガスでは、この土日にも郵便投票の集計をほぼ終えるとの見通しが示されていて、全体の勝敗を占う上でも重要な局面を迎えそうです。」とのことが伝えられた。

このトピックに当てられた時間は141秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・大統領選挙の開票作業への対応：結論→特に問題なし

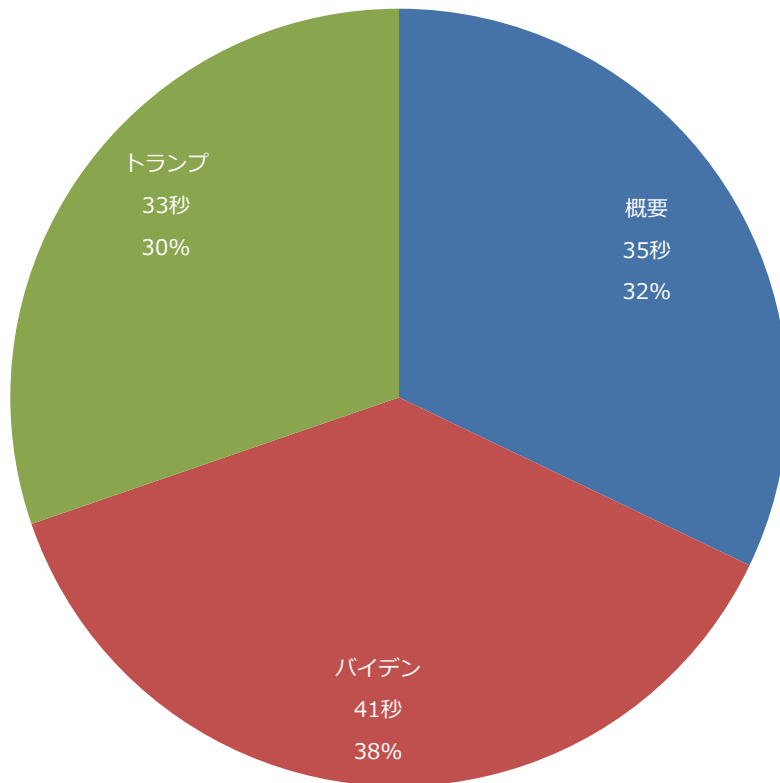
日下部キャスターの「勝利に王手をかけている民主党のバイデン候補と追い込まれたトランプ大統領、両者の間で開票作業に向けた対応の差が鮮明となっています、バイデン氏の陣営がある東部デラウェア州から中継です。」とのコメントを受けて、以下に朱記したようなVTRが取り上げられていた。

土居一雄（報告）「国民向けに演説を行ったバイデン氏は『我々は勝利する』と強い自信を示しました。」

バイデン「まだ勝利を宣言しないが、数字は明確で説得力がある。我々はこの戦いに勝利する。」

土居一雄「バイデン氏は『大統領としての私の責務は国全体を代表することだ、私に投票しなかった人のためにも懸命に働く』と強調、また『民主主義では強い意見の違いは避けられない、意見の違いは健全だ』として国民の団結を訴えました。対するトランプ大統領は声明で『国民やアメリカのために戦うことを絶対に諦めない』と主張、郵便投票を念頭に『違法な票は数えるべきではないと言って来た』と強調しました。ただ今回の選挙に違法な票があるという証拠はありません。またTwitterに『訴訟手続はまだ始まったばかりだ』と投稿し、法廷闘争を続ける考えを示しましたが、訴訟を起こす必要がある不正の証拠についても一切示さないままです。開票作業を静かに見守るよう呼びかけるバイデン氏に対し、根拠なく不正を訴え抗議行動を煽るトランプ氏、こうした対応の差がそのまま現時点での選挙人の差となって現れています。」

このトピックに当てられた時間は109秒で時間配分及び比率は以下の通りであった。



・北海道の新型コロナ対策：結論→特に問題なし

膳場キャスターの「次のニュースです、今日も過去最多の 187 人の感染者が発表された北海道では、独自の警戒ステージを 3 に引き上げ、札幌の繁華街、ススキノで営業時間の短縮などを要請することを決めました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"鈴木直道（北海道知事）「ただいま、ステージ 3 に移行することを決定致しました。ここで徹底した感染防止対策を講じ、これ以上の感染拡大を抑え込んでいかなければなりません。」

ナレ「今日の北海道の新規感染者は 187 人で最多を更新し、感染の拡大が止まりません。」

街の声 A「うーん、しょうがないかなとは思いますが。」

記者「しょうがない。」

街の声 A「ただ、やっぱり飲食店関係の方は大変ですよ。」

ナレ「このうち、札幌市の感染者は 141 人でこちらも過去最多でした、また札幌以外の地方にも感染が広がっています、このため、道は今日午後、独自の警戒ステージを五段階の 3 に引き上げました、特に感染が拡大しているススキノではキャバレーやバーの営業時間を午後 10 時まで、またカラオケ店や居酒屋などには午後 10 時以降、酒を提供しないよう要請します。対象地域はススキノを中心としたエリアでおよそ 4000 の店舗があります。」

"鈴木直道「なんととしてもこの 11 月、この 11 月で抑え込んでいく。」

秋元克広（札幌市長）「ススキノ地区に置きましては深夜に及ぶ飲酒、これをともにする場での感染というものが拡大をしておりますので、営業時間、それから酒類提供時間の短縮の対象となる施設に置かれましてはより多くのご協力を改めてお願いをしたい。」

ナレ「要請の期間は今日から 27 日までの 3 週間で協力した事業者に 20 万円の支援金を支払います。」

このトピックについて当てられた時間は 125 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・アメリカの新規感染者：結論→特に問題なし

アメリカの新規感染者およびホワイトハウスの感染者について VTR が取り上げられるとともにナレーションによって「アメリカでは 6 日、一日あたりの感染者が 12 万 6000 人を超え過去最多を更新しました。これはジョンズ・ホプキンス大学の集計によるもので 5 日の新規感染者も 12 万人を超えていてここ最近、連続して過去最多を更新しています。こうした中、複数のメディアがメドウズ大統領首席補佐官が新型コロナに感染したと伝えています。AP 通信によりまずとホワイトハウスでは他に数人も検査で陽性が確認されたということです、メドウズ氏は現地 4 日未明、トランプ大統領が選挙について会見した際、会場に姿を見せていたということです。」とのことが伝えられた。

このトピックについて当てられた時間は 43 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・菅総理が感染再拡大に強い懸念：結論→特に問題なし

スタジオでの日下部キャスターの「菅総理が感染の再拡大に強い懸念を示しました。」とのコメントをうけて以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

菅義偉（総理）「爆発的な感染拡大は絶対阻止し国民の皆さんの命、健康をしっかりと守り抜きます、」ナレ「菅総理は新型コロナウイルスの感染が不他旅拡大していることに懸念を示した上で、来年の前半までにすべての国民が無料でワクチンを受けられるようにしたいと訴えました。政府は週明けには第三次補正予算案の編成に向け、本格的な調整を始める見通しで、コロナ対策も改めて盛り込まれる方向です。」

このトピックに当てられた時間は 46 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・横田拓也さんの『命の講演会』：結論→特に問題なし

日下部キャスターの「北朝鮮に拉致された横田めぐみさんの弟、拓也さんが東京の中学校で『命の講演会』と題して、拉致された当時のめぐみさんと同じ世代の中学生に自らの経験を語りました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"横田拓也さん（横田めぐみさんの弟）「私が何も考えずに、お風呂に入っていこうとしたときにですね、父が声を殺して泣いていた。」

ナレ「横田めぐみさんが新潟市内で中学のバドミントン部の練習帰りに拉致されて今年 15 日で 43 年、生徒たちは。」

中学 1 年生女子 A「普通に夜道を帰っていたけれど一人で帰るのがものすごく怖くて。」

横田拓也さん「この席に、一人だけ席が空いた席が生まれてしまう。」

ナレ「拓也さんは横田さんの家の問題ではなく、みんなが自分置き換えて考えてほしい、と語りました。」

このトピックに当てられた時間は 64 秒で放送法上は特に問題は見られなかった。

・【特集】アメリカ大統領選挙：結論→従来の報道姿勢と合わせて考えると不十分

スタジオでの膳場キャスターの「特集はアメリカ大統領選挙です、金平さん。」とのコメントに対し、中継から金平キャスターが「はい、ホワイトハウスを見渡せるブラックライブズマタープラザにいます、今は真夜中ですのでとても静かです、投票日から今日まで三日以上が経過し、ようやくバイデン候補の当選が見渡せる地点までたどり着いてきたな、というのが率直な感想です。投票日からの動きを現地で取材しました。」と答えた後に、以下に朱記したような特集の VTR が取り上げられていた。

"金平茂紀「ホワイトハウスのすぐそばの公演ですけれども、バイデン支持の市民団体が集まっているということなんですが、色んな国籍というかバックグラウンドがある人達、ヒスパニック系、さっきアジア系の人たちがアピールしていましたけれども。」

ナレ「昨日、ホワイトハウスではバイデン氏を支持する人達が集まっていた。」

バイデン支持者 A「私達は声を上げる権利を持っています、声を上げるべきです。」

バイデン支持者 B「トランプがホワイトハウスから去ることになって幸せです、次の住人が必要です。」

バイデン支持者集会「私達が勝つと信じている」 "

ナレ「一方、この日、開票が続く激戦州、東部ペンシルベニア州では両候補の支持者が睨み合っていた。ここ、ペンシルベニアでは郵便投票の集計が進むと、バイデン氏の逆転が伝えられた。バイデン氏の故郷では。」

バイデン氏の故郷の市民 C「ワクワクしています、思ったほど僅差でなくてよかった。」

バイデン氏の故郷の市民 D「バイデン氏に分断の溝を埋めてほしいです。」

ナレ「そして、日本時間今日午後、一時頃。」

バイデン「勝者についての最終発表はまだありません、しかし数字（開票速報）が明確に示しています、我々はこの選挙戦に勝利するでしょう。」

ナレ「勝利宣言こそしなかったが自信を見せた。」

バイデン「明確になりつつあるのは、さまざまな人種/宗教を超えた記録的な数のアメリカ人が変化を選択したということ。」 "

ナレ「混迷を極めるアメリカ大統領選。」

トランプ「正当な票を集計すれば私の楽勝。違法な票を集計すればバイデン陣営が選挙結果を盗むことになる。」

ナレ「分断と混迷のアメリカ大統領選、未だ勝者が決まらないアメリカ大統領選、現地で何が起きているのか。」

(CM)

"ナレ「投開票当日の夜、ホワイトハウス前広場はトランプ氏に抗議する人々と多くの報道陣で埋め尽くされていた。」

トランプ氏に抗議する人々「トランプ、ペンス、いますぐ出ていけ」

金平茂紀「” TRUMP LIES ALL THE TIME” トランプはいつも嘘をついている、という大きな幕をみんなで持っていますけれども、こっちは” REMOVE TRUMP” というふうにトランプを排除しろと排斥しろと、取り除けっというふうにすごい数の人が集まっていますね。」

バイデン支持者 E「10時間も運転してきたのよ、まだ早いけど、バイデンが勝つと思うわ。」

バイデン支持者 F「ドナルド・トランプは嫌いよ、彼は人種差別主義者だし、とにかく NO よ。」

ナレ「路上では抗議する人々と警察官がぶつかり、一触即発の場面も。」

金平茂紀「ブラックライブズマタープラザの通りですけれども自転車に乗って警備をしている、まあ警察ですね、警察と、集会に参加しているような市民たちがまあぶつかってですね、いま一人男性が警察にまあ連行されるとことですね、それに対して非常に強い抗議の声が上がっていますけれども。」

ナレ「開票が進むに連れ争いは更にエスカレート。そして日付が変わり、トランプ氏が大量票のフロリダを制したことが伝えられると。」

金平茂紀「このあたり、先程までは人がたくさんいてお祭り状態だったんですけれども、今はもう帰ってしまってますね、なんとなくこう、空気が淀んでいるというような印象を受けますけれども。」

"ナレ「そして、午前2時過ぎ、激戦州でも大きくリードする中。」

トランプ「はっきり言って我々はこの選挙に勝った。私が知る限り、我々はすでに勝利している。だから皆さん

に感謝したい。」

ナレ「トランプ氏は一方的に勝利宣言を行った。」 "

金平茂紀「これ今見ているのは CNN ですけれども CNN でもまだ、決まっていないところがたくさんある中で 220 バイデン、トランプ 213 というような形ですけれども集計作業が途中の段階で片方が一方的に勝利を宣言してしまうというようなことはアメリカの歴史の中でこういうことは初めてですね。」

ナレ「勝利宣言をしたトランプ氏は郵便投票に一部不正があったとして、開票をやめるよう提訴した。これを受け、開票所では。」

トランプ支持者たち「開票をやめろ！」

ナレ「トランプ支持者たちが詰めかけ集計中止を訴える事態に。一方でバイデン支持者は。」

バイデン支持者たち「全ての票を集計しろ」

ナレ「全ての票を集計するよう訴えるデモが各地で起きた。だが、午後になると情勢は一変、バイデン氏が猛烈な追い上げを見せ、激戦州のミシガンなど 2 つの州を相次いで制したのだ。」

金平茂紀「ああ、今丁度 CNN がミシガンの勝利、バイデン候補の勝利を今、報じていますね 253 対 213 というような。」 "

バイデン「全ての開票が終われば我々が勝利すると確信している。我々が勝利に必要な 270 人の選挙人を獲得するために、十分な数の州で勝っているのは明らかだ。」

ナレ「ついに過半数の 270 に王手をかけた。これに対し、トランプ大統領は郵便投票への不満を Twitter に公表。」

トランプ大統領 (Twitter) 「昨夜、多くの州で私がリードしていたのにリードが魔法のように消え始めた、既に我が国の制度と大統領選挙事態に損害を与えられている。」 "

"ナレ「激戦州、ネバダでは」

記者「現時点でどのくらい集計が残っているのか。」

ネバダ州選挙管理人「まだ数字は言えない。」 "

"ナレ「選挙管理人の会見中に、突然。」

乱入した男「違法行為を行っているバイデン陣営がこの選挙を盗もうとしているんだ、メディアはそれを隠そうとしている。」

ナレ「乱入した男はバイデン陣営が選挙で不正を働いている、と叫び、去っていった。」 "

ネバタ州の選挙管理人「ところで最後の質問ってなんでしたっけ？」

"ナレ「開票所の前には銃を持つトランプ支持者の姿も見られた。」

トランプ支持者 G 「とんでもない、トランプ圧勝だと言われていたのに、朝起きたら負けているなんて、どういうことだよ。」 "

ナレ「激戦州の東部ペンシルベニアの開票所前でも支持者どうしが互いを罵り合っていた。」

バイデン支持者 H 「全ての票の集計を！」

松本年弘「ペンシルベニア州フィラデルフィアの開票所前です右側がトランプ氏の支持者、左側がバイデン氏の支持者、互いの衝突を避けるためでしょうか、柵が設けられています。」

バイデン支持者 I 「トランプはお前のために何をした！」

トランプ支持者 J 「バイデンこそお前のために何をした。何もしていないじゃないか。」

"ナレ「今回の大統領選を巡ってはトランプ氏が投票に不正があったとして法廷闘争に持ち込もうとしている、現地時間の木曜、報道陣の前に姿を見せたトランプ氏は。」

トランプ大統領「彼ら (バイデン陣営は) 汚いやり方で選挙に勝とうとしている。不正を行っているのだ、それ

を許してはならない。正当な票を集計すれば私の楽勝だ。違法な票を集計すれば（バイデン陣営は）選挙結果を盗むことができちゃう。」

ナレ「発言は強気だが、手元の原稿を読むだけで、いつもより身振り手振りが少ない。」

トランプ「彼ら（バイデン陣営）は必要な票がどのくらい必要かどうかを計算し、それらの票を見つけてくる。」

ナレ「トランプ氏は郵便投票に不正が多いと主張するがその根拠は示されていない。この日、記者からの質問は受け付けなかった。」

記者「負け惜しみですか。」

記者「なぜ選挙の手法を貶めるのですか」

ナレ「アメリカの NBC ニュースは。」

NBC ニュース「大統領が不正な投票があったなどと根拠を示さず多くの虚偽の発言をしたため、生中継をここで打ち切らなければなりません。」

ナレ「他の主要テレビ局もトランプ氏が虚偽の情報を拡散していると判断し、会見の中継を打ち切った。トランプ陣営は不正を訴える虚偽の情報も拡散させている。」

エリック・トランプ（トランプ大統領の次男）「皆さん、これは詐欺です。絶対的な詐欺です。彼ら（バイデン陣営）は私達を騙そうとしています。それが勝利への唯一の道だから。」

ナレ「バイデン陣営を激しく批判しているのはトランプ氏の次男、エリック氏、エリック氏は一昨日 Twitter にこんな投稿をした、」

エリック（Twitter）「トランプの投票用紙が 80 枚燃やされた。」

ナレ「そして別の人の投稿した動画をリツイート。」

動画「ああ、全部トランプだ、やらなければいけないことはやらないと、トランプの野郎。80 枚くらいある。」

ナレ「男性が多く投票用紙と見られる紙にオイルを掛け燃やしていた。しかし、動画が撮影されたバージニアビーチ市は『この投票用紙はサンプルの用紙であり、公式の投票用紙ではない』と CNN の取材に回答したという。現在、動画を投稿したアカウントは停止されている、また、トランプ氏はミシガン、ペンシルベニアなど 4 つの州に対し集計の中止などを求め、提訴したが、そのうち 3 つの州で却下された。」 "

"トランプ「我々は選挙に簡単で勝つと思う。証拠機種なり、訴訟を多くすることになるだろう。最終的には最高裁で決着をつけることになるだろう。」

ナレ「今後も訴訟を拡大させる方針で、連邦最高裁に持ち込むことも辞さない姿勢を示した。」 "

(CM)

"ナレ「アメリカでは過去にも大統領選挙の決着が連邦最高裁に持ち込まれたケースがある、共和党のブッシュ候補と民主党のゴア候補による大接戦が繰り広げられた 2000 年の選挙、」

CBS ニュース（2000 年）「ここで訂正です、フロリダの情勢がわからなくなりました。」

ナレ「激戦州フロリダで両者の得票差が 0.5%以内だったことから、州の法律に基づき、不他旅集計が行われることになったのだ。」

アル・ゴア（民主党候補、2000 年当時）「結果はまだわかりませんが、これは民主主義にとって異常な事態です。」

ジョージ W ブッシュ（共和党候補、2000 年当時）「最終型の結果に従うまでです。」

ナレ「結果はブッシュ氏が僅差でリード、ゴア氏は機械で弾かれた票があるとして手作業による最終型を求め、法廷闘争に持ち込んだ、フロリダ州の最高裁判所はゴア氏の訴えを認めたが、ブッシュ氏はこれを憲法違反だとして連邦最高裁に上訴、」

ゴアの支持者集団「全ての票を数えよ！」

ナレ「連邦最高裁の前ではゴア候補の支持者たちが全ての票を数えるよう声を上げた。しかし、最高裁は最終型は不可能、として、ゴア陣営の訴えを退けたのだ、この判決を下した 9 人の判事について、アメリカの司法制度に詳しい猪俣弘貴氏はこう語る。」 "

"猪俣弘貴（明治大学教授）「最高裁の中は判決が分かれましたがけれども、5 対 4 で分かれましたがけれども、当時からもうすでに保守派が強かったですから、五人の保守的裁判官はブッシュの主張を認めて、そこには不平等が生じると、こういう結論を出して、ブッシュの勝利につながったんですね。」

ナレ「1 ヶ月以上に渡って繰り返された法廷劇はその後、ゴア氏の敗北宣言によって幕を閉じた。」

大統領選の勝敗を連邦最高裁で決着させると繰り返し主張するトランプ大統領。その背景にあるのが大統領選直前に決めた連邦最高裁判事の人事だ。ブッシュ氏とゴア氏が戦った最高裁でも判事を務め、リベラル派の代表格だったギンズバーグ氏が今年 9 月に死去、その後任にトランプ氏が指名したのが人工妊娠中絶や銃規制に否定的な保守派のバレット氏だ。バレット氏の就任により最高裁の判事 9 人の内 6 人が保守派に。裁判で有利な判断を引き出すため、トランプ氏は民主党などの反対を押し切り、指名を強行したと見られている。しかし、アメリカの専門家からは今回の訴訟についてトランプ氏の主張は根拠を欠くもので連邦最高裁が扱うものではないと指摘する声も。」

ネッド・フォリー（オハイオ州立大学教授）「最高裁は有効性に疑問がある票があり、それが結果を左右するような場合にのみ関わることになる。今回はそうしたケースにはならない可能性がある。」 "

"ナレ「だが、連邦最高裁まで争えなくても、訴訟を長引かせることに意味があるという。」

猪俣弘貴「彼が狙っているのは自分が接戦で負けたところの席よ人団を出させない、遅くとも 1 月 6 日までは連邦議会に各州の選挙人団を書いたところの書簡が送られてきていなければ、もう始まらないんですね、ですからこの段階まで訴訟をノアが微かせて、そういうところの選挙人団を送り込まない、と。」 "

ナレ「訴訟が長引き、連邦議会で選挙人の投票が集計される来年 1 月 6 日までに結果が確定していなければ、その州の票がカウントされなくなってしまうという、さらに猪俣氏はトランプ陣営がこんな手段も視野に入れていると語る。」

猪俣弘貴「まああともう一つ言うとしたら、本当に大上段に郵便投票拜見だということで今回の大統領選挙を無効にしてしまうということも一つの手だと思います。」

"ナレ「万が一、そうなった場合、どうなるのか、大統領は連邦議会の下院で選出されることが憲法で定められている。しかし 435 人全ての下院議員が投票できるわけではないという。」

猪俣弘貴「各州から 1 名それぞれ選んで 50 州、50 人で投票するんです、そうなった場合にはトランプが勝つんじゃないかというふうな見立てをする人が多いみたいですね。」 "

(CM)

ナレ「今回の選挙で有権者はどちらの候補者にどんな理由から投票したのか、投票した人に聞いてみると。」

"有権者 K「トランプよ。」

有権者 L「トランプだ。」

有権者 K「彼は雇用と国の収入を増やしたし、工場をアメリカに取り戻しました。」

"金平茂紀「どの候補者を支持しますか？」

有権者 M「個人的な問題なので内緒にしたいんですが。」

金平茂紀「候補者選びで一番重視する点は？」

有権者 M「中絶です。中絶に反対です。」 "

"有権者 N「バイデンに投票しました。リーダーシップが大事なんです、コロナへの対応もそうです。」

有権者 O「バイデンです。コロナ、教育、そしてイスラム教徒なので、ここに安心していただけるということです。」
ナレ「AP 通信が 11 万人以上対象に行なった世論調査では白人の票ではトランプ氏がバイデン氏を上回ったが黒人の 9 割がバイデン氏に投票。ヒスパニック系とアジア系は 6 割から 7 割がバイデン氏に投票した。また、争点を経済/雇用と考えた人の 81%はトランプ氏を支持、新型コロナの感染拡大と考えた人の 73%はバイデン氏を支持した。異例となったコロナ禍の大統領選。民主党は郵便投票の利用を推奨し、集会も人が密集しづらいドライブイン形式で実施。一方で、共和党の集会は密集した状況で行われマスクを付けない支持者の姿が目立った。

"投票前にも訪れたワシントン市内の公園にあるモニュメント、コロナで亡くなった人と同じ数だけ旗が立てられている、今週、アメリカではついに一日の感染者数が 10 万人を超え、死者の合計は 23 万人に達した。"

金平茂紀「増えたね、前のときより、考案したアーティストのスザンヌさんはコロナの感染拡大の影響が選挙結果に現れていると話す。」 "

スザンヌ・ファステンバーグ「投票できなかった人たちがここには 25 万人煮るんです。彼らはコロナに感染して初めて自分達に何が起きているのか、どれほどないがしろにされているのか気づいたのです。マスクは他人に対する村長の証なのに、我々の大統領は何度も国際社会に背いてきました、後 4 年、彼が大統領だったら本当に大変なことになると思います。」

"ナレ「選挙分析を専門とする保守系シンクタンクの研究員は期日前投票の扱いが今回の結果に影響したと分析する。」

ノーマン・オーンステイン (AEI 研究員)「民主党系支持者と独立系の大多数 4 分の 3 ほどが期日前投票しました。共和党支持者の圧倒的多数、おそらく 4 分の 3 ほどが投票日に投票しました、トランプ氏が頼りにしていたのはその部分でした、投票後に最初に集計される票が投票日に投じられた票で、そこで大きくリードすることができ、勝利宣言できると考えていました。」 "

ナレ「期日前投票や郵便投票の開票が後回しになり、圧勝ムードの中、世論を味方につけられるとトランプ陣営は見込んでいた。

"ところが、開票作業は予想を超えて早く行われ、その思惑は外れたという。」

ノーマン・オーンステイン「共和党よりの州を含む多くの州で期日前投票や郵便投票が到着し、集計が始められました。結果の判定には全ての票を集計するまで待つということについてメディアの監視が働き、一般の人々もそれを理解していました、その点で大統領の望み通りにはなりませんでした。」 "

(CM)

金平茂紀「再びワシントンです、予想されるトランプ政権の終わり新しいバイデン政権の誕生に向けて、平穏な政権以上が行われるのかどうか、現地の人はこの結果をどう受け止めているのか、様々な人に聞きました。」

"ナレ「今年 2 月選挙集会でバイデン氏は報道特集の取材にこう答えていた。」

金平茂紀「日本にメッセージを、日本のメディアにメッセージを」

バイデン「アメリカは復活します。日本との同盟関係は重要です。敬意を持って対応します。」 "

"ナレ「一体、どんな人物なのか。ペンシルベニアの炭鉱町に生まれたバイデン氏は 29 歳で上院議員選挙に初出馬、無名ながら当選を果たす、だが、その 1 ヶ月後、悲劇が訪れる。」

テロップ「バイデン上院議員の妻と娘が事故で死亡」

ナレ「妻と子供三人が乗る車にトラックが追突、妻と一歳の娘は帰らぬ人となった、上院議員就任の宣誓を行ったのは重症の二人の息子の病室だった。失意の中で議員を辞めることも考えたというのが、後に当時のことをこう語っている。」

バイデン「同僚の彼らが私を説得したんです、六ヶ月間だけでも議員をやるようにと。」 "

"ナレ「そして、5年前、再び悲劇に襲われた、長男が脳腫瘍により46歳の若さでこの世を去ったのだ。バイデン氏のことが日本でも広く知られるようになったのはオバマ政権の副大統領に就任したときだ。若く経験の浅いオバマ大統領から経済再建の法案などでの議会对策を一手に託された。アメリカ政治に詳しい、渡部恒雄氏はバイデン氏について。」

渡部恒雄（笹川平和財団上席研究員）「調整をしたりするのが非常にうまい人、それから彼はキャリアが長いですから、かつて共和党と民主党で両方で協力するような超党派の協力の時代をよく知っている人なんですね、ですから共和党に友人も居ますし、そういう意味でじつは長らく議会にいた議会人と言ってもいいと思います。」 "

"ナレ「また、環境問題への関心が高く、地球規模での環境保護に熱心に取り組んでいる、副大統領として二度、日本を訪れたバイデン氏、2011年には東日本大震災の被災地に足を運んでいる、仮設住宅の住民との懇談会では国からの補助金はあるのか、など、被災後の生活について強い関心を寄せていた。講演ではこんなメッセージを贈りました。」

バイデン「妻と娘を失ったときには母こう言いました。『辛いことがあっても目を凝らせば、きっといいことも見つかる』と。アメリカはどこにも行きません、みなさんと一緒に居ます。」 "

"日本人女性 P「日本のことをね、考えていただいて、本当にありがたいことだと思いました。」

日本人女子生徒 Q「こういうふうにお話させていただいて、聞いたりできていい経験ができたと思うので、はい。」

"

ナレ「一方でバイデン氏を巡っては日本との関係に緊張が走ることもあった、2013年、当時の安倍総理が靖国神社を参拝、これに対しアメリカ政府は"disappointed"失望した、というコメントを発表した。ここにはバイデン氏の強い意向が働いたと言われている。実はその直前、日韓関係の改善を強く求めていたバイデン氏が安倍総理に靖国参拝を見送るよう、促していたという。だが、その意図が正確に伝わっていなかったと見られる。今回の選挙で『私かトランプか投票を迷うのは黒人ではない』と発言、失言として追求される場面があった。更にこんな発言も。」

"トランプ氏「石油産業を終わらせる？」

バイデン氏「古い産業から転換する。」

トランプ氏「それはすごい発言だ。」

バイデン氏「私は転換する。」

司会『それはなぜですか。』

バイデン氏「石油産業は環境破壊を起こすからだ。」

ナレ「これが石油関連を主要産業とする州での反発を招き、劣勢だったトランプ大統領の巻き返しにつながったとも指摘されている。」 "

"ハリス（副大統領候補）「ハロー！ペンシルベニア！準備は出来てる？」

ナレ「バイデン氏が副大統領候補に指名したカマラ・ハリス氏、56歳。投票日前日もバイデン氏の出身地、ペンシルベニア州スクラントンで力強くバイデン氏への投票を呼びかけた。」

ハリス「深淵、自信、希望をもって投票しましょう！ジョー・バイデンを次の米大統領に当選させましょう！」 "

"ナレ「開票が進み、勝利を確信していると語るバイデン氏の傍らにいるハリス氏、バイデン氏が勝利すればアメリカ史上初めて黒人女性の副大統領が誕生することとなる。ジャマイカ出身の父とインド出身の母との間に生まれた移民二世。人種に関係なく国が一つになるべきと訴えた。」

ハリス「私たちは癒やしと修復に取り組みます。そして国を一つにしましょう！民主党も共和党も人種も経歴も無関係に！」 "

"ナレ「ハリス氏が副大統領になることを待ち望む人達がいる。」

マニシャ・シン（インド系移民）「すごく興奮しています、」

金平茂紀「きのうの夜は興奮した？」

マニシャ・シン「昨日だけじゃなくてここ数日興奮していました。」

ナレ「胸の高鳴りを抑えきれない様子の女性、バージニア州に住むマニシャ・シンさんはハリス氏と同じインド系移民だ。」

マニシャ・シン「信じられないわ、こんなふうに状況が変わるのが民主主義よね。」

ナレ「マニシャさんは 23 年前留学のためにインドからアメリカに移住、その後市民権をえて初めて迎えた大統領選挙は 2008 年、オバマ大統領のときだった。」

マニシャ・シン「アメリカコクミンになって初めての選挙だったのがオバマ大統領のときだったことを誇りに思っています、選挙はオバマに投票したの、でもオバマのあとの 4 年は辛かったわ。」 "

"ナレ「厳しい移民政策を推し進めたのがトランプ大統領だった。」

マニシャ・シン「この 4 年のマイノリティの人たちの扱われ方や、コロナを中国の伝染病と呼んだり、インドを汚い国と呼ばわりしたり、今は憎しみが蔓延しています。そのままにはできないわ、特に私達移民はこの国に恩返ししなければなりません。」

ナレ「マニシャさんは今回の選挙でバイデン氏とハリス氏を支援するグループに入り、活動を続けてきた。」

金平茂紀「興奮しているのはバイデン氏が指名したのが。」

マニシャ・シン「カマラ・ハリス。ハリスがアジア系アメリカ人で黒人で女性だということが素晴らしいわ、それに彼女は頭も良く仕事もできるし、」

ナレ「マニシャさんと同じインド系移民たちはハリス氏に期待を寄せている。」

ラクシャさん（インド系移民）「南アジアでは女性は男性より一歩引くべきだという考え方があるんですが、黒人でインド系のハリスは南アジアの女性の新しい姿、役割を認めさせたのよ。」

シーマさん（インド系移民）「この国にはもっとリベラルな人が必要。もっと進歩的な女性が必要なんです。だからハリスがいてくれてすごく嬉しい。」

金平茂紀「トランプ氏に言いたいことは？」

シーマ「トランプさんバイバイ今までの 4 年間は悪夢よ、ホワイトハウスから出ていって来て嬉しいわ、二度と戻って来ないで。」 "

"バイデン「私に投票してもしなくても、すべての国民の大統領になる。」

ナレ「バイデン氏は国内の分断の修復や国際社会との連携を繰り返し強調してきた。」 "

"ジェラルド・カーティス（コロンビア大学名誉教授）「彼は人のために働くことが政治だと思っています、これはトランプ氏と一番対照的です、トランプ氏は自分のことしか考えていませんでした。」

ナレ「こう話すのは長年に渡り日米関係を研究してきた政治学者、ジェラルド・カーティス氏。」

金平茂紀「日米関係について伺います。申請喧嘩では大きな変化が起きると思いますか？」

ジェラルド・カーティス「私は根本的な変化が起きるとは思いません、しかし、バイデン氏は特に防衛分野でより多くの協力を求めて、日本に圧力をかけてくるでしょう。彼は同盟国との強い連携を強調しています。ということは同盟国もアメリカに協力しなければなりません。」 "

"ナレ「民主党は軍事費の増額に関しては消極的な正当だ、その分、バイデン政権になれば日本などの同盟国に対して時刻での防衛強化を求める可能性がある。」

ジェラルド・カーティス「ただ、世界の中での日本の安全保障を考えるとバイデン氏の方が良いと思います。」 "

"ナレ「日米の安全保障政策に詳しい渡部恒雄氏も、」

渡部恒雄「バイデン大統領になったほうが、安全保障上、日本にとってはいいことがいっぱいあります。」

ナレ「中国への対応におけるトランプ氏とバイデン氏の違いは。」

渡部恒雄「トランプ大統領は個人的な関係でディールを駆け引きを達成しようと思っていて、中国は批判するんですけども、習近平主席は批判していないんですね、どっかでディールをしたいと思ったら、実は安全保障とか人権とかの問題で妥協してしまうリスクが有るのは実はトランプ大統領です。」

"膳場貴子「例えば日中間の尖閣問題なんかを考えた時にバイデン政権のほうが意味強く出る。」

渡部恒雄「あの、強く出るとかどうかはわからないんですが、多分幅なんですね、トランプ大統領のほうが中国に対してすごく強く出るときもものすごく柔らかく柔軟に妥協する時の幅が大きいんですね、それに比べるとバイデン政権のほうがおそらくトランプ政権ほど強硬に中国に向き合わない部分もあると思うんですが、特にその人権とか民主主義をむしろ大事にするのが民主党政権ですか、妥協はあんまりしないと考えていいと思います。」

ナレ「今後、日本に何を求めてくるのか。」

渡部恒雄「居間の安全保障の中心は中国とどう向き合うかですから、そのときに一番大事な同盟国というのは日本なんですよ、これをよくわかっているその点はある心配しなくていいと思います。ただ、よく知っているのでもあんまり変なことをすると見透かされますよね、あの、日本の弱点も知っている、いいところも知っているけれど弱点も知っているっていうことですね。」

膳場貴子「変なことって例えばどういうことですか。」

渡部恒雄「例えばですね、バイデンさんは朝鮮半島の、その北朝鮮の核危機の頃から議員として活躍しているので、いかにこれが難しい問題勝って知っていますし、同盟国、日本と韓国の役割が大事だということもよく知っているわけですね、だからこそ日韓がうまく関係を良くしないで、韓国が日本に対して、あるいは日本が韓国に対して、あの非常に関係を悪化するようなことを政治的な目的でしたとすれば、それに対しては厳しく出るんじゃないでしょうか。」

特集の VTR を受けてスタジオと中継の間で以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

"膳場貴子「さて、ワシントン支局の岩田支局長と中継がつながっています、岩田さん、最新の開票状況、どうなっていますか。」

岩田夏弥「はい、アメリカは投票日から四日目に入りました、激戦が続く 4 つの州の開票状況がこちらになります。バイデン氏はこの 4 つのうち、一つでも勝てば大統領選挙の勝利が確実になりますが、ご覧のとおり、3 つの州でリードを維持してしまっていて、王手をかけた状態が続いています、ただ、トランプ氏は選挙に不正があったとして裁判に訴えるとしています。バイデン氏の勝利が確実となってもそのまますんなり大統領に就任できるのか予断を許さない状況が当面続きそうです。」

"膳場貴子「岩田さんあの、選挙前からベニヤ板をうちろけるとか暴動に備えて色々対策していましたよね、今のこの状況に対してアメリカ国民の緊迫感とか怒りとかは感じますか。」

岩田夏弥「まああの、トランプ氏がですね不正があったから裁判を起こすといい出したことによりまして、選挙の結果がでても実は戦いが終わるわけではなさそうだとということになりましてだとするとこの暗いムードはどこまで続くんだろうという言わば先の見えない疲れと不安が出てきているように感じます。」

"日下部正樹「あの、トランプ大統領はですね、民主党が選挙を盗んでいる、とこういう主張をしているんですけども、こういった発言、一般のアメリカの人たちはどう受け止めているんですか。」

岩田夏弥「はい、トランプ氏ははっきりした証拠は示さないままに不正があったとしか思えない、と主張しているというのが実態に近いと思います、そしてこちらですね、トランプ氏が半日ほど前に Twitter に載せたメッセ

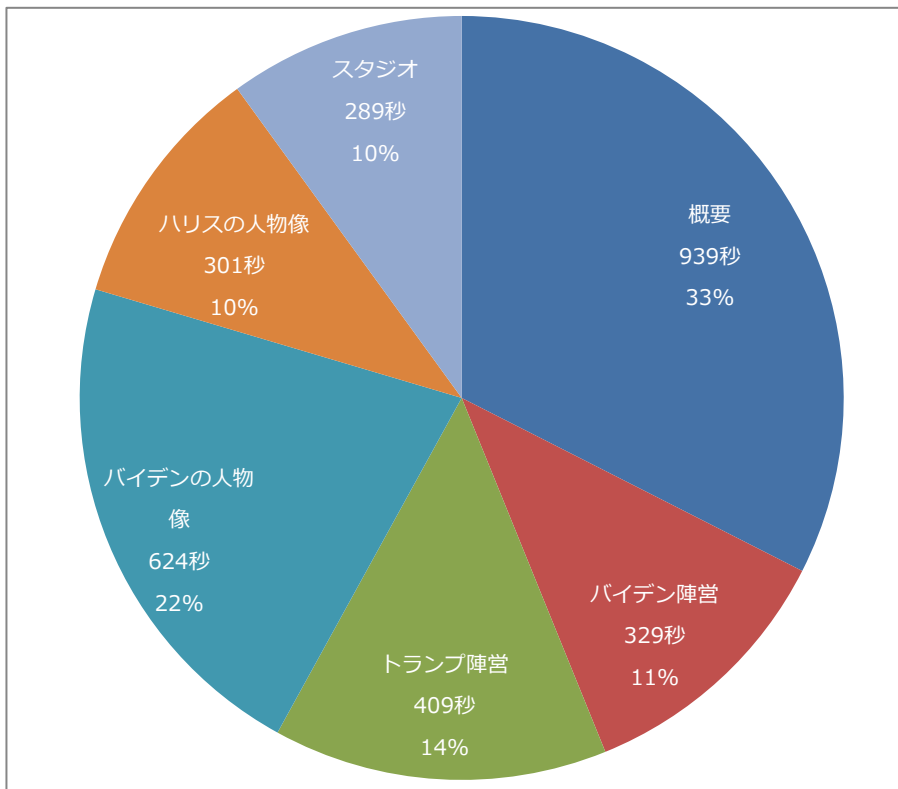
ージですが『バイデン氏は大統領職を不当に主張すべきではない。訴訟手続はまだ始まったばかりだ』ということで、いかにもバイデン氏が不当に大統領になろうと企んでいて、全ては訴訟で明らかになるという印象を与える文章ですけれども、そもそもなぜこの訴訟を起さなければいけないのか、という肝心の証拠は示していないままなわけです。有権者も大統領から直接 **Twitter** でメッセージを受け取ると、疑問を持たずに鵜呑みにしてしまい、応援しないといけないと感じた人がかなりいるのではないかと思います。また、一部のメディアは不正の証拠が何なのかという問題は脇においてトランプ氏の主張に乗っかって、民主党への攻撃を続けています。」

金平茂紀「あのね、岩田さんの言う通り、そのメディアの責任というのは大きいと思うんですけども、考えてみたらそのトランプ大統領の言動をメディアが批判するにせよ、すり寄るにせよ、当初から面白がって、型破りぶりっていうのを取り上げ続けて、それが今の異様な独裁的な力を生んだんじゃないかと思うんですけども、まあトランプ慣れっていうんですかね、で、ソーシャルメディアがそれをさらに拡大する役割を果たしてしまっただけという。トランプ大統領自身が **Twitter** でつぶやき続けてですね、いま 8700 万人ですか、のフォロワーを持つというアメリカ最大のソーシャルメディアのプラットフォームを持ってしまっている、それがまあ 2 つのアメリカをさらにこう分断、深井対立に導いたのは明らかですよ、ただ、こっちのメディアはですね、物を言うってことは少なくとも物を言っているわけで、日本のメディアはそれに比べると物を言っていないね、まあどちらがまともかなということを私は個人的には考えさせられたんですけどね。」

岩田夏弥「こちらで取材をして感じるのですね、リーダーの言葉や振る舞いというのが国民に与える影響はやはりとても大きいということです。トランプ氏は選挙戦の最終盤の集会でバイデン氏をからかうような映像を会場に流しまして支持者と一緒に笑いながら見ていました、自分を第一に考えて、考えの違う人は馬鹿にしたり排除してもいいんだという風潮が広がって、そしてそうした風潮を許せない人たちの怒りも限界に達し、アメリカ社会は大切なものを失い、深刻な事態に陥っていると思います。」

金平茂紀「ただですね、あの、実際、トランプ大統領はですね 4 年前に比べ、今回は 740 万人分増えているんですね、だからトランプ氏が去っても、トランプイズム、トランプ主義っていうのは生き残るんじゃないか、というようなことを言う人が多かったですけども、とにかく今回取材をしてトランプ政権というのはまもなく終わると思うんですけども、一つ大きく教えられたことは有権者の投票で政治は確実に変わるということを教えられました。その力がアメリカには残っているんだということがわかった、ということですね。以上、ワシントンからでした。」

この特集に当てられた時間は 2921 秒で、時間配分および比率は以下の通りであった。



今回の特集では大統領選挙においてバイデンの当選が非常に有力視されている段階ということから、バイデン候補の人となりや外交政策およびハリス副大統領候補の人となりについて取り上げられる部分も多かったが、それは選挙戦の情勢を考慮した場合、直ちに偏りのある報道とは言えないと考えられる。

とは言え、これまでバイデンの人物像や世界戦略を掘り下げて報じるということを怠ってきたという報道特集の報道姿勢については放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」に照らし合わせると不十分と言える。

・日本学術会議：結論→問題あり

膳場キャスターの「さて、日本学術会議の任命拒否問題を巡って今週、国会は紛糾しました。」とのコメントを受けて、以下に朱記したような VTR が取り上げられていた。

「辻元清美（立憲民主党衆院議員）「ハンコを押す前にこんな 6 名の人が外された、ということを知っていたということですか。」

菅義偉（総理）「そういうことです。」

辻元清美「誰から聞きましたか。」

菅義偉「ええ、多分、杉田副長官だと思います。」

ナレ「菅総理は国会で初めて杉田官房副長官の関与を認め、さらに、政府の人事介入をほのめかず、こんな発言もしました。」

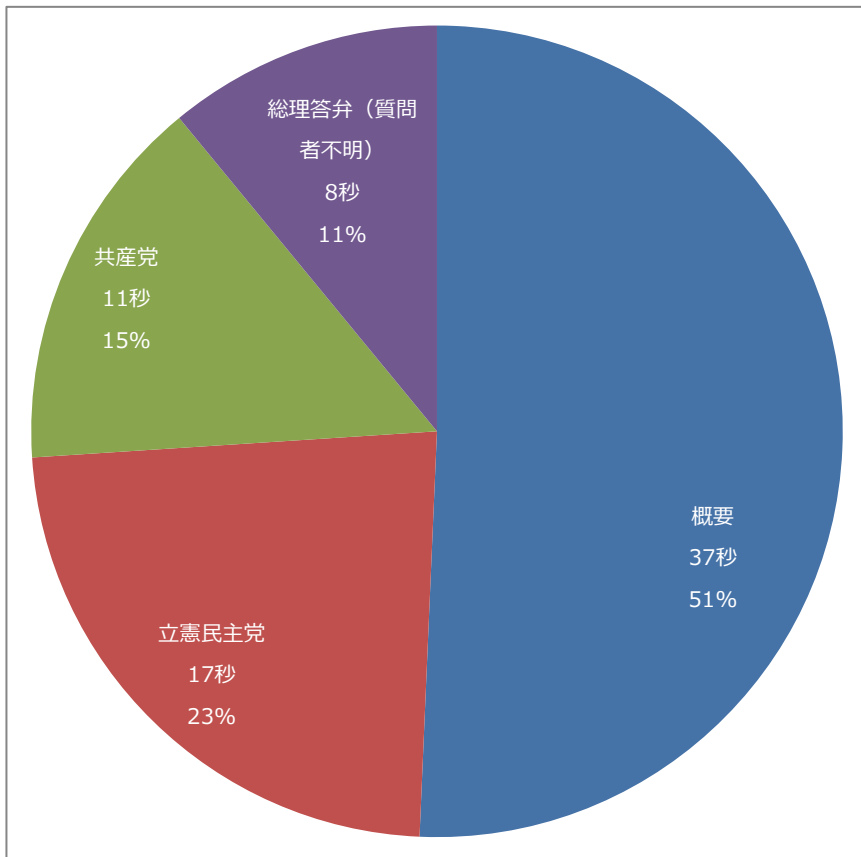
菅義偉「内閣府の事務局などと、学術会議の会長との間で一定の調整が行われていたと承知しています。」

小池晃（共産党書記局長）「推薦前の段階で政府が意見を伝えて、それに基づいてすり合わせてそれで名簿ができている、介入なんですよ、これは。」

VTR を受けてスタジオでは「膳場キャスターの「うーん。」とのコメントを受けて日下部キャスターが「こうした折も折と言っていいんでしょうか、戦前の言論弾圧事件、天皇機関説事件のまゝ迫害の対象となった美濃部達吉の当時の心情を綴った手紙が見つかりました。来週また学問の自由について考えたいと思います。」と語ってい

た。

このトピックに当てられた時間は 73 秒で時間配分及び比率は以下であった。



この一週間の国会審議として学術会議について取り上げられていたが、この一週間の審議としてまとめておきながら国民民主党や維新の会からの質疑について全く取り上げられていない、というのはどういうことであろうか。

学術会議について維新の会や国民民主党が立憲民主党や共産党と同じ熱量で国会審議にて取り上げているのに、それをメディアが取り上げないということなのか、それとも学術会議の問題については維新の会や国民民主党はそれほど熱心ではないから取り上げていないのかはわからないが、前者であれば維新の会や国民民主党を立憲民主党や共産党に比べて軽く取り扱っているということになるだろうし、後者であれば維新の会や国民民主党は学術会議ではなく熱心に取り上げている他の論点があるはずだが、それをメディアが無視しているということであり、それは維新の会や国民民主党という政党を立憲民主党や共産党に比べて蔑ろにしているというだけではなく、維新の会や国民民主党が問題だとしている論点をメディアが恣意的に軽視した報道をしている、ということであり、いずれにしても放送法第四条一項二号「政治的に公平であること」に照らして問題であると言えるだろう。

最高裁判例の見地からの「印象操作」に関する所見および該当トピックの報道内容要旨

特になし

検証者所感

・大統領選挙の開票作業への対応

土居キャスターは中継で「開票作業を静かに見守るよう呼びかけるバイデン氏に対し、根拠なく不正を訴え抗

議行動を煽るトランプ氏、こうした対応の差がそのまま現時点での選挙人の差となって現れています。」とコメントしていたが、このコメントは因果関係が逆であろう。

そもそも、郵便投票や期日前投票というのは開票作業に対する両候補の態度表明に先立って行われているわけだから、開票作業に対する対応の差が選挙人の差となって現れている、ということは論理的に起こり得ない。

ところで、報道特集では郵便投票を信用できないとする意見を直ちに民主主義の否定というように捉える言説がキャスターから度々発信されてきたが、そもそもアメリカの郵便制度というのは信用できるものなのだろうか。仮に郵便制度そのものが党派性であるとかそもそもの運用の杜撰さであるとか、そうした理由で信用できないとすれば、郵便制度への不信を理由に郵便投票を否定するというのは民主主義への肯定否定とは全く別の次元の話になるのではないだろうか。アメリカの郵便制度の実態がわからないので、そこはなんとも言えないが、郵便制度についての言及もなしに郵便投票に対する不信を直ちに民主主義の否定であるとか非倫理的・非道徳的な振る舞いであるかのように論じるのは早計であろう。

・【特集】アメリカ大統領選挙

これまでの報道特集では大統領選挙にまつわる争点として **BLM** や移民政策などが取り上げられてきた一方で、日本にとって重要な日米関係およびアメリカの世界戦略という点については今回になってやっと取り上げられという状態だった。また、これまで、トランプの言動や両陣営の動きが取り上げられる一方でバイデン候補の人となりというのはほとんど取り上げてこなかった。

アメリカに暮らす人々あるいはアメリカへの移住や留学を考えているにとっては **BLM** や移民政策というのは非常に重要なトピックであることは間違いないが、日本から出る予定のない日本人にとっては **BLM** や移民政策よりもアメリカの世界戦略であるとか、その中での日米関係の方がよほど重要なテーマであると言えるだろう。

しかし、報道特集ではこれまでそうしたテーマに触れてこず、大勢が決しつつある今になってようやくバイデンの世界戦略や日米関係についての見通しを取り上げられる、という番組構成だった。

放送法上は問題ないと思うが、一体報道特集はどういう人々を視聴者と想定して番組を作っているのだろうか、製作者の見識を疑う構成であった。